



昨年度立ち上がったモデル校の皆さんが、子どもたちの学びや生活の支援をし、その子どもたちが生き生と活動する姿や活動している大人たちの充実した、楽しそうな表情は、他の小中学校のコミュニティ・スクール立ち上げに弾みをつけてくれました。それは、本年度4月に、地頭方小、川崎小、榛原中、牧之原小中に、コミュニティ・スクールが立ち上がるだけでなく、10月には、相良小、菅山小、細江小、坂部小Cのコミュニティ・スクールが立ち上がり、本年度中に市内全小中学校がコミュニティ・スクールとなりました。

地域の中で遊ぶといった活動もほとんどなくなったこのごろ、保護者でなければ学校や子どもたちにかかわらない、学校のことは学校にお任せというといった地域にたくない。楽しみながら元気に子どもたちにかかわる地域の方々に触れることで子どもたちが**計りきれない地域愛**を育んでくれるのではないのでしょうか。無理をせず、やれることをぼちぼちでいいから、学校と地域みんなで子どもたちとかかわり、子どもたちと地域をみんなで育んでいきましょう。

コロナ禍ではありますが、各学校、それぞれ独自の活動をCSディレクター、運営協議会の方々と進めています。どの学校も、子どもたちも、関わる地域の方も、そして先生方も楽しみながら、やりたくて（意志をもって）活動しています。（この楽しみながら、意思をもってということ大切にしたいなあ。）皆さんの活動を見て、学校と地域の距離が近くになった気がします。以下、いくつかの学校の様子を紹介します。

川崎小

3月3日、川崎小学校学校運営協議会が行われました。前回の学校運営協議会で決定した「あいさつおみくじ」で子どもたちの挨拶を活発にしていこうという取り組みも手ごたえのある活動になっているようでした。続いて、これも、前回の学校運営協議会で提案された、利用できる学用品をプレゼントする気持ちで譲る「おさがりGIFT」事業が委員から形となって提案されました。主催は、川崎小学校学校運営協議会、PTAですが、共催に川崎区絆づくりと書かれており、地域への広がりを感じました。どれだけ集まるかはわからないけれど、持続可能な社会の実現を子どもたちが考える機会にもなる意義ある活動になるのではないかと思います。協力をお願いします。



川崎小CS通信「南風」の記事に、友仁会の方々による環境整備活動がありました。友仁会と言えば、榛原中学校の環境整備と思っていましたが、小学校にも対応してくださったようです。小学校とか、中学校とかという区切りではなく、地域の子どものためにというつながりを感じて頼もしくなりました。今後も、中学校区で、さらに、市内でつながってほしい。（そう言えば、塩づくりは、相小、萩小をスマイルの方々が、細江小の芋切干しを萩小の方々が教えてくれました。地域の子どものために、つながりましょう！！）



最後に、村上CSディレクター発信の春休み中の活動「茶の実で遊ぼう」のチラシを見つけました。楽しそう！！お茶の盛んな牧之原市の子どもたちだからこそ「茶の実相撲」を体験してほしい。（私も子どものころ、少しでも、とがった茶の実を探して勝負したものです）<ちゅとびっくりしたこと>知っていましたが、**日本茶の実油協会**があることを…。

萩間小

昨年からはまった「子どもたちと学ぶ書初め授業」。本年度も何人かの方と一緒に書初めが行われました。参加する地域の方も、書初めの授業を受けるという学びの姿勢で参加し、その上で、子どもたちへの支援もしています。こんな授業が増えるといいなあ。小学校だったら、リズム縄跳びに、級や段の審査があるようだけど、地域の方や保護者もやりたいんじゃないかなあ。中学校だったら、スポーツテストなんかどうでしょうか。



3月4日には、第4回学校運営協議会が開催されました。毎回、傍聴者が学校運営協議会委員の3倍ほどいる中で協議会を実施している萩間小学校。（ただ、周りが何人居ようが委員の皆さんの発言は、傍聴の皆さんをビビらせてしまうほど熱く、時間無制限かと思うほどの協議会になっています。）今回は、委員の皆さんでじっくり話をさせていただければと思い出席を控えました。今日、その時の会議資料が届きました。その資料を見て、本当にたくさんの地域の方々が子どもたちにかかわっていることに感激。さらに、萩間小学校の次第の中に、新企画の提案があり、今度はワクワクしてきました。一つ目は「**菅山小6年生と萩間小6年生の交流会**」菅山小とすでに話を始めたのか、どんな交流会なのかまったくわからないけれど、いずれ同じ相良中学校に進学する6年生がこうしてかかわりを始める。子どもたちだけでなく、両校の学校運営協議会のメンバーが仲間となって活動する、そう思うと私はワクワクします。2つ目は、「**先生方とのワークショップ**」これは、12月に井上CSマイスターが萩間小学校を訪問した時、井上さんとの話の中で出てきたこと。先生方と地域の代表となる学校運営協議会のメンバーがひざを突き合わせて話をする中で、よりお互いの思いを理解した中で子どもたちにかかわることができるようになると思います。来年度が楽しみになってきました。

地頭方小



牧之原市内の多くの小学校に、郵便ポストがある。懐かしいなあと思いながらも、なぜあるんだろう？その疑問はさておき、八木 CS ディレクターは、これを子どもたちと地頭方小ならではのポストにしようと子どもたちと考えました。ポストのペンキはがしを地域の松林鉄工所さんが、塗装は地域の原口塗装さんが協力してくださり、3年生の子どもたちによる地頭方小学校らしい「鈴木梅太郎博士の梅」を描いたインスタ映えスポットとなるポストに塗り替わりました。この時、無人販売棚も地頭方の海をイメージして塗り替えられたようです。地域で働いている大人に教えてもらいながら、一緒になって、自分たちの学校を子どもたちの思いを込めた形で作るって、子どもたちが学校に愛着を持つ、とても楽しい活動だと思いませんか。

また、地頭方小学校 CS から、「プランターで、卒業生を送ろう大作戦」の案内が届きました。これは、参加者は、500円参加料を支払い、プランターに寄せ植えをする講座です。寄せ植えしたプランターは、各自のものになるけれど、卒業式の前日に各自のプランターを小学校に持ち寄り、卒業生の通り道や式場を飾るという取組です。地域の公園に30名ほどが集まり、子どもたちが巣立つ姿を思い浮かべながら和気あいあいと短時間でしたが取り組みました。地頭方に住んでいる私も参加させていただきましたが、学校や子どもたちが身近に感じられました。きっと、子どもたちも地域から見守られているという思いを持ってくれるのではないのでしょうか。あ~楽しかった!!



勝間田小

前回の学校運営協議会で話題となった「きらり農園」。もっと、地域の方々が気軽に立ち寄り、かかわったりできる農園になれないか話題になりました。委員の皆さんが、当事者意識をもって、自分たちにできることの発言が頭に残っています。その話し合いの時、きらり農園の看板を新しくしたいという提案がありましたが、先日行ってみると形となっていました。この板の字は、前任の櫻井校長先生が書いてくださり、地域の仏像彫刻家 中島雅之さんがその字の部分のみやま学級の子もたちと一緒に彫ってくださったようです。思いのこもった看板になりました。



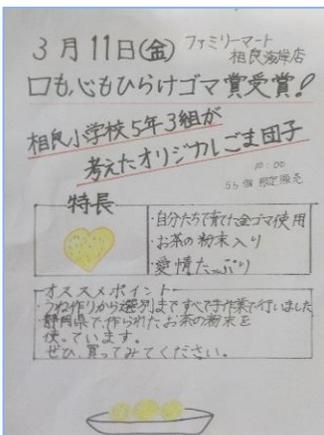
CS ルームには、イチゴがたくさん栽培されていました。教頭先生が中心になって作られているようですが、このイチゴを使って、スズッキーがイチゴロールケーキをつくり、子どもたちの進級、卒業祝いにしようです。どんな演出で子どもたちに分けるのか。とっても楽しそうでワクワクします。暖かさを感じる取組ですね。

3月の学校運営協議会は、コロナ感染症防止から中止としたようですが、学校から、後期のCS通信、CS アンケート集計結果、学校評価等の資料いただきました。

CS アンケートを見ると、「CS の活動は、CS ディレクターの配慮と地域の協力なしではできないことばかりで本当に有り難い。地域とかかわりながら学ぶ形ができているのでさらに地域の方とともに学ぶ場や機会をつくってほしい。」という保護者の声を見つけました。励みになりますね。

お知らせ

アースランチに取り組んだ相良小学校5年3組の子どもたちが考えたオリジナルごま団子（口も心もひらけゴマ賞受賞）が、ファミリーマート相良海岸店で、3月11日（金）10:00より限定100個販売されます。



相良小学校の5年3組の子どもたち、ふるさと科による探究活動で、自己実現を図る学習を展開。その取組の軸となったものがアースランチプロジェクト。地域でごまづくりに取り組んでいる方（本業は茶農家）のごまづくりへの思いを知り、その生き方に感銘し、自分たちもごまをつくり、ごま料理を牧之原の人に食べてもらうことで、この方の思いを広めたいという熱い思いを持って作り出したごま団子。そんな子どもたちの熱い思いを知った学校運営協議会のメンバーが、地域のお菓子屋さんさんに協力を依頼し、子どもたちの作ったごまが、商品化され、販売となったようです。子どもたちの思いが形となり、その思いが地域の大人を動かしたんですね。私も、購入してみようと思います。（どうか、売り切れていないように願っています。）